



教育目標

国際社会が進展する21世紀の担い手として、たくましく生きる力を培い、互いのよさを尊重し合い、進んで社会に貢献できる人間の育成を図ることをねらいとして、次の教育目標を掲げる。

「自立と共生」



★本校のホームページも是非ご覧ください★

目黒中央中学校

【携帯サイトのQRコード】

巣立ち

弥生

目黒区立目黒中央中学校
校長 西田 友幸

3月、1年間を共に過ごした仲間との別れの季節となりました。

数年前の話ですが、近くの公園を通りかかったときのことです。「ちゅんちゅん」と雀の鳴き声が聞こえてきました。その公園の名前は、「すずめのお宿公園」というのですが、その名の通りだなあと感じながら歩いていました。しかし、その鳴き声が普段と違ってやけにけたたましく、何か非常事態が起きているかのようでした。よく見ると竹藪の奥を小さな生き物が走り回っていました。「何だろう?」と思い目を凝らしていると、どうやら雀のひな鳥のようでした。巣から落ちてしまって、親鳥がパニックになって鳴いているのかと思い、どこに巣があるのかなと木の上を探しましたが、見つかりませんでした。もっとも巣を見つけてもひな鳥を人間の手で触って戻しても大丈夫なのかと、いくつかの疑問が生じたので、文明の利器を活用して調べて（ググッて）みました。

するとあるHPに鳥の巣立ちについての記述がありました。そこには、『鳥が大きくなった雛（ひな）を巣から追い出すこと。』とありました。追加の解説として、『追い出された雛は、親と同じくらいの体つきですが飛べないので、羽をばたつかせながら地面を這いずり回り、草の実や小さな昆虫を食べて生きていきます。その間、親鳥は木の枝など高いところから、危険が迫ると大きな鳴き声を発して注意を促すが、それ以外の手助けは一切しません。そのうち、雛はだんだんと足や羽を動かす筋肉が鍛えられ、いつしか大空へ飛び立っていきます。』とありました。

鳥の雛の何割かは、飛び立つ前に命を落としてしまうかもしれません。しかし、野鳥である雀は、人間の助けはかえって自立をするためのトレーニングには余計なことなのかもしれません。

雀の親は、私が近づいたことそのものが驚異であったため、あのような大きな声で鳴いたのだと理解しました。心配だけど、自立させるためには必要な試練ということです。そういえば、「親」という漢字の成り立ちは、「木」の上に「立」って「見」と書きますね。

感染症に振り回された1年間でしたが、目黒中央中生はこの環境下でよく頑張ってくれたと思います。最後のひと月は、1、2年生にとって1年間の締めくくり、3年生にとっては中学校生活を「巣立つ」最後の準備期間です。

「自立」は、本校の教育目標のひとつです。4月からはそれぞれ新たな1年が始まります。スタートをうまく切るには、準備が必要です。早めに大空に飛び立てるように、残りわずかですがしっかり学校生活を送って、必要な力を蓄えてください。

新年度もおそらく、窮屈な生活が続いてしまうと思います。しかし、令和3年度も本校の教育目標「自立と共生」の達成を目指して、互いの違いを尊重し、互いを認め合える目黒中央中生として行動してくれることを信じて、期待をしています。

